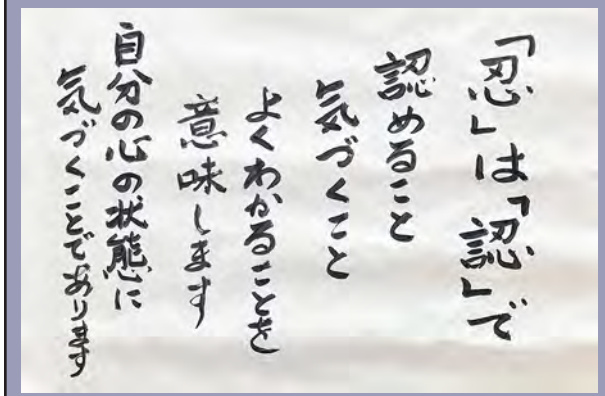
實相寺花園会報

令和五年
五月一日発行
発行所
臨済宗妙心寺派
陽明山　實相寺
實相寺花園会
〒761-0450
高松市三谷町
1811番地1
TEL087－889－3838
編集発行人
山本文匡
https://www.jissouji.net
第169号



お寺の掲示板

仏陀とは「気づいた人」という意味です。ですから仏教の一番の核心は気づくことにあるのです。そして、気づけば理性の反応が自然と働いてきます。

堪えるというよりも自分の感情に気づけば自然と自制することができるのです。

円覚寺派管長　横田南嶺老大師
『ある日の法話より二　いろはにほへと』より

「施餓鬼・花園会総会の開催」

4月16日（日）午前10時より施餓鬼会春期総供養と第42回實相寺花園会総会が開催されました。

コロナ禍も少し落ち着き、例年通りの開催日程でご案内したところ、久しぶりに40名を超えるご参加を頂き、ご荷担頂いた部内寺院4名の方々と共に、厳粛かつ盛大裡に法要を勤めることができました。

また法要後は巡教師、横関政徳師の法話に引き続き、花園会総会が開催され、全ての議案が原案通り採択されました。なお会則に規定はありませんが、55通の委任状を頂いていたこともご報告させて頂きます。

欠席の方には『花園』5月号と共に総会資料と花園会費の振込用紙をお送り致しましたので、何卒宜しくお願い致します。

「迷いの中に光を見出す（補足）」

年度テーマについて前回、前々回と述べましたが、その後、YouTubeで横田南嶺老師の法話を拝聴し、大変参考になったので、少し補足したいと思います。

「回光返照」という言葉があります。一般には夕日の照り返しのことですが、中村元先生の『佛教語大辞典』では「自己の本来の姿を回顧し、反省して修道すること。自分自身を振り返ってみること。」とあります。

唐代の禅僧、仰山禅師は弟子達に「各自に回光返照せよ」と仰っています。後に『碧巌録』九十三則にも収録されたこの問答を、長くなりますが山田無文老師の提唱から引用します。

「昔、仰山和尚も衆に示して言われておる。『汝等諸人、各自に回光返照せよ』ー皆ひとつ自分の内心に向かって、光を発見せよ。外ばかり見ておってはいかん。その外へ向かっておる光を内側へ向けてみよ。その内側の真理を発見させるためにわしは言うのである。子供の泣くのを止めるのに、黄葉を与える様なもので、わしの言う言葉は、めいめいが自分の心の中をさぐってみて分かるのであって、言葉そのものには意味はないのだ。『吾が言を記すること莫れ』ーだから、わしの言うた言葉だけを暗記してはいかん。わしの言うた言葉によって自分の心の中をさぐってみなさい。『汝等無始劫来、明に背いて暗に投じ』ーみな無始劫来の迷いの中におる。仏性に背いて、妄想煩悩の中に落ち込んでおるのだ。本

来持っておる如来の智慧徳相をくらまして、妄想執着の雲の中に落ちておるから、悟りが開けんのである。『妄想根深うして、卒に頓に抜き難し』ーその妄想執着の根が深いために、なかなかなくならんのである。その妄想を取ってやろうとしてもなかなか取れんのである。『所以に仮に方便を設けて、汝が麤識を奪う』ー麤識は妄想だ。ただ坐禅せよ、回光返照して、外を見ずに坐禅して内側を見ておれと言うても、なかなか妄想執着を断つことができんから、仮に方便を設けるのである。趙州の無を見て来いと、これが方便である。その方便によってあらゆる妄想執着を奪ってやるのだ。『黄葉を将て小児の啼くを止むるが如し』ーちょうど泣く子を黙らせるために銀杏の葉をやって、これが黄金だと言うのと同じことだ。無そのものに価値があるのではない。めいめいの煩悩執着を断ち切る方便が無である。分かってしまえば無もいらん。いつまでも無に尻を据えておると、我もなければ世界もない。何もない、虚無主義だ。さらに大きな迷いに入ることになる。こう仰山和尚も言われておる。」

つまり、前回も申し上げたとおり、迷いの中に光を見出すには、自らが主体的に学んでいくより他は無いのですが、その希望の光は自己の外ではなく、自己の内側にこそ存在するのです。

横田老師の動画→